

◆ 今週のコメント

- ・ **デング熱**の報告が1例あり、推定感染地域はフィリピンです。本年4例目の報告となり、推定感染地域は、国外(バリ島2例、タイ1例、フィリピン1例)で、感染経路は、すべて蚊となっています。平成15年から、連続して報告があり、第34週までの累積報告数は、感染症法に基づく届出の対象となった平成11年(4月)以降、最も多くなっています。
- ・ **手足口病**の定点当たり報告数は、0.73(30例)で、過去5年平均値を上回っています。年齢階級別では、6箇月～6歳で報告があり、1歳(10例)、2歳(6例)の順に多く、6箇月～3歳が80.0%(24例)を占めています。
- ・ **突発性発しん**の定点当たり報告数は、0.54(22例)で、過去5年平均値を上回っています。年齢階級別では、1歳(12例)、6～11箇月(8例)、0～5箇月(2例)の順に多く、全て1歳以下です。
- ・ **感染性胃腸炎**の定点当たり報告数は、3.02(124例)で、先週に比べ増加しています。年齢階級別では、1歳が14.5%(18例)と最も多く、4歳以下で49.2%(61例)を占めています。

◆ 今週のトピックス: <流行性耳下腺炎>

流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、1.12(46例)で、過去5年平均値を大きく上回っています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 8例(肺結核 5例, 肺外結核 3例, 潜在性結核感染者 なし), (喀痰塗抹陽性 なし)
【1月以降の累積報告数 231例(肺結核 147例, 肺外結核 58例, 潜在性結核感染者 26例), (喀痰塗抹陽性 61例)】
- ・ 四類: **デング熱** 1例【1月以降の累積報告数 4例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.01	1
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	3.02	124
	② 流行性耳下腺炎	1.12	46
	③ 手足口病	0.73	30
	④ 突発性発しん	0.54	22
	⑤ 水痘	0.41	17
眼科	流行性角結膜炎	0.70	7

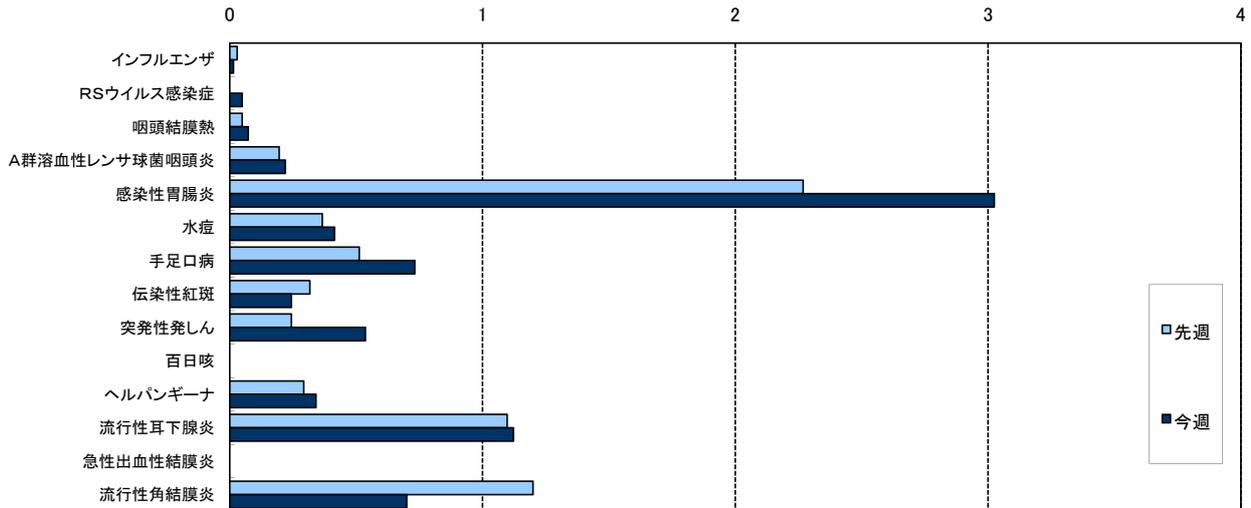
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <流行性耳下腺炎>

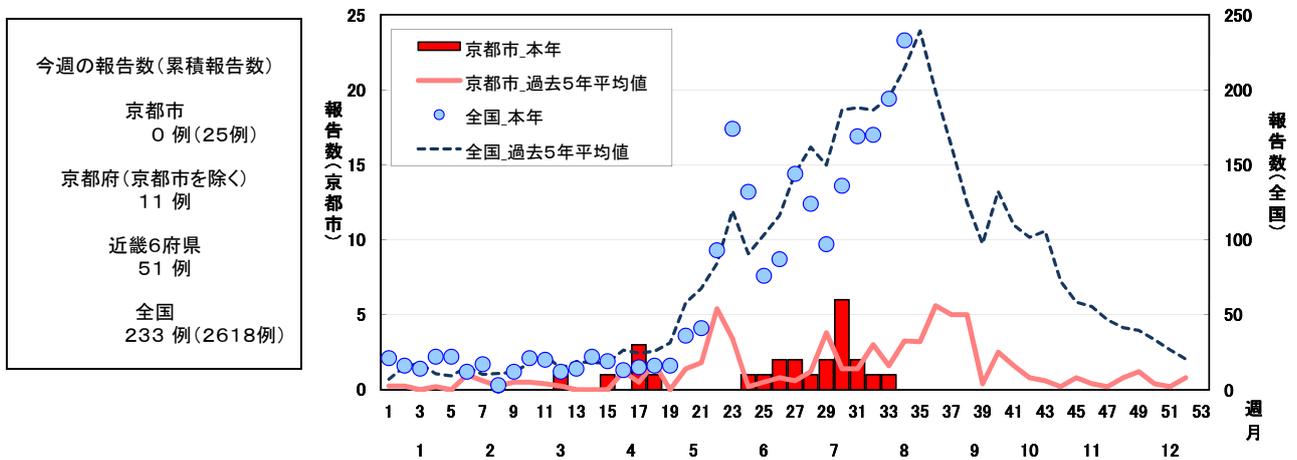
(注) 京都市のデータは、平成22年9月2日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第34週)と先週(第33週)の定点当たり報告数の比較

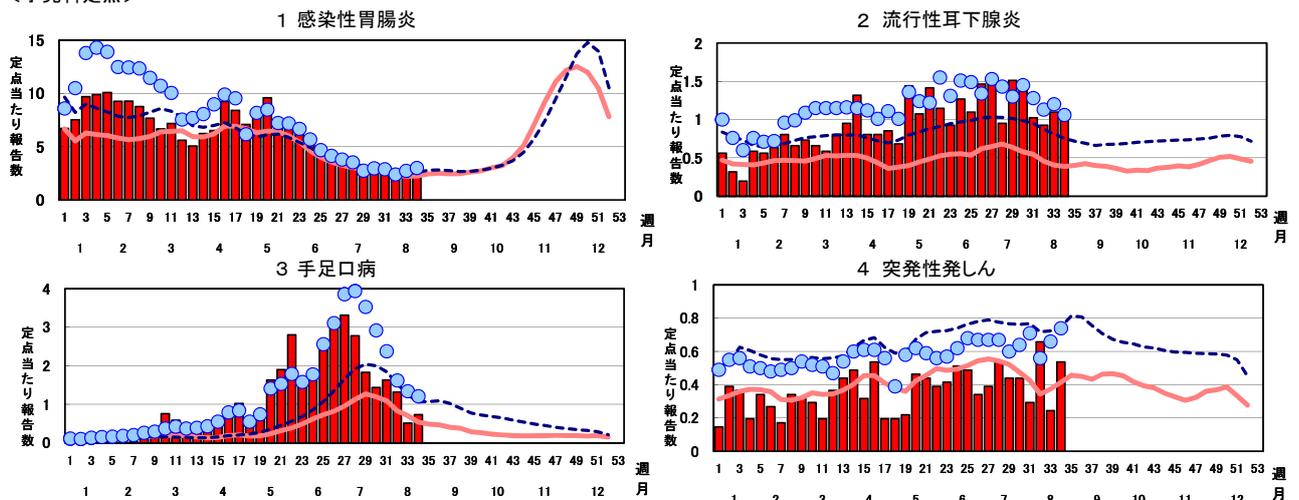


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

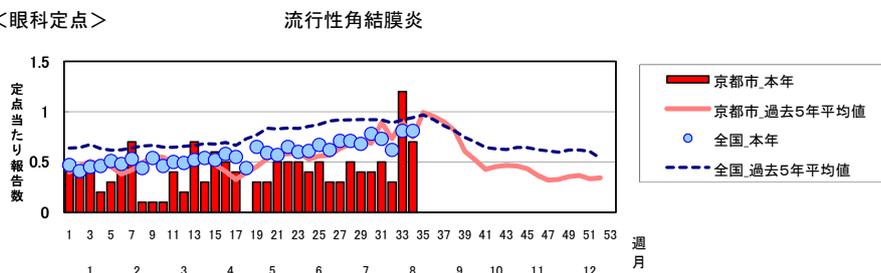


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>

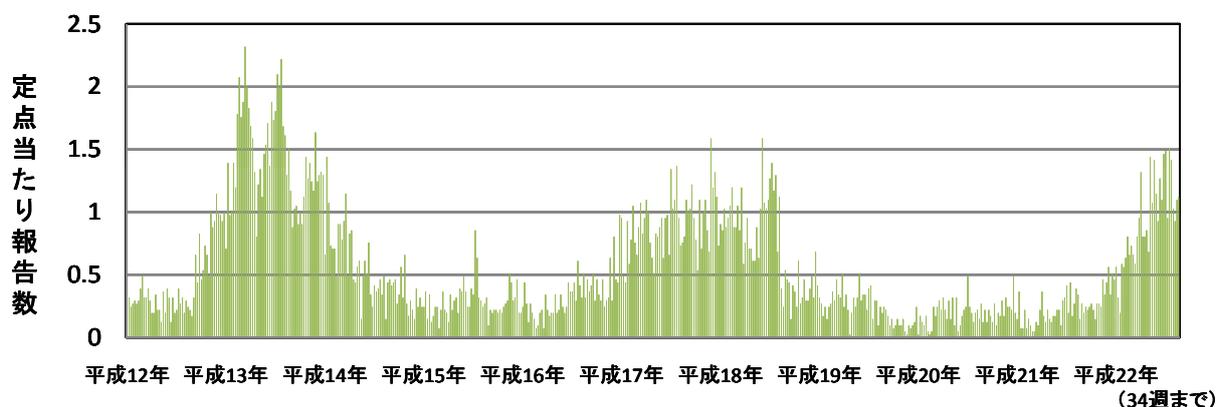


第34週(8月23日～8月29日)トピックス: <流行性耳下腺炎>

流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、1.12(46例)で、過去5年平均値を大きく上回っています。年齢階級別にみると、4歳と5歳が各10例(21.7%)で最も多く、次いで3歳と6歳が各7例(15.2%)となっています。

平成12年以降の定点当たり報告数の推移をみると、数年周期で報告数が増減しています。平成19年以降、定点当たり報告数が少ない状態が続いていましたが、本市及び全国ともに、本年第4週から過去5年平均を上回る状態が続いています。今後の動向に御注意ください。

平成12年～平成22年第34週の定点当たり報告数の推移



本市及び全国の定点当たり報告数の推移

